

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491300287		
法人名	社会福祉法人名張育成会		
事業所名	高齢者グループホームひかり		
所在地	三重県名張市美旗中村2326番地5		
自己評価作成日	平成30年12月17日	評価結果市町提出日	平成31年3月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kihon=true&JigvoVoCd=2491300287-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 31 年 1 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

若年性認知症の方の受け入れを行い、97歳から57歳までという幅広い年齢層の入居者が共に生活を楽しめるよう支援している。法人内の障害分野とも連携や交流を行い、広い視野を持った認知症高齢者の介護支援を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は小高い山の上に立地し、四季折々に変化する木立に囲まれた広大な敷地内にある。春は桜、秋には紅葉と、自然に恵まれた環境で、日頃から外気浴を兼ねてホームの周りを散歩している。住みなれた地域で第2の我が家となるホームは、全てに広く開放感あふれる空間があり、対面式キッチンから利用者全員の見守りが出来る工夫がされている。介護経験豊富な管理者・職員は、利用者が今まで歩んでこられた人生に敬意を払い、明るく生き生きと過ごせる暮らしが出来るように支援している。また、法人内では職員教育に力を入れ、年間を通じて資質向上の職員研修の取り組みを実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に管理者や職員の目に留まるように玄関や事務室に掲げ意識し実践できるようにしている。また、法人の理念研修に参加することで、具体的にどのように実践に繋げていくかを学んでいる。	事業所理念は法人の理念と同じで、玄関や事務室などに掲示している。管理者は常に理念の意義に振り返り、職員と共に研修会を行い、考え話し合い、一人ひとりの介護の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の開催、地域行事への参加、民生委員や専門学校生の見学の受け入れなど地域に開かれた事業所として交流している。	事業所発足後まだ3年であるが、法人は長い実績があるので地域に根づき、交流している。事業所から地域へ働きかける企画や行事を考えていたが、まだ職員体制が整わず具体化できていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での現状の報告や地域行事に参加、法人内での研修の講師することにより認知症の人への理解などを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の現状を報告し出席者の意見をいただいている。会議録は職員全員に回覧、周知し、ミーティングなどで話し合い実践に役立てている。	年6回開催し、市の医療福祉総務室・まちの保健室・家族・民生委員・自治会長・地元区長・老人クラブ等、地域の幅広い層が参加し、毎回たくさんの情報提供や活発な意見交換が行われている。いただいた助言は職員間で共有し、大いに役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の会議への出席、介護相談員の受け入れなどを通じて連携を図っている。また、認定更新申請時には市の窓口へ直接出向き、入居者の様子、空き状況などを伝えている。	市の担当者に運営推進会議に参加してもらい、各種の相談や行政情報などを聞いている。介護保険の切り替えや疑問点などの相談および3か月毎の介護相談員の訪問を通じて良いアドバイスをもらう等連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体的拘束等の適正化のための指針」を作成しミーティングなどで職員全員で周知している。法人名の研修にも参加し報告書を全員で回覧することで理解を深めている。	今年度より施行された身体拘束等の適正化について委員会を設け、何が拘束にあたるのかを職員全員で話し合い、昼夜を含めて拘束をしないケアに取り組んでいる。またヒヤリハット記録でお互いに注意あっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	権利擁護委員会の委員を中心に委員会での内容報告を受け職員全員で共有している。また、入浴時の身体状況の確認、日ごろの様子の観察などで虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者はいないが、法人の権利擁護の研修などに参加し、制度を学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には書類と共に十分な説明を行い、ご本人やご家族からの要望や意見、疑問点を聞き、理解、納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からは面会時に意見や要望などを聞いている。入居者からは運営推進会議や介護相談員の受け入れなどで職員や外部者へ表せる機会を作っている。ミーティングや引継ぎなどで報告し運営に役立てている。	家族代表に運営推進会議に参加してもらっており、家族来所時には話しやすい雰囲気づくりに心がけ意見や要望を聞く工夫をしている。利用者の衣類を間違えないよう名前を書く場所を決めたり、好きな時にお茶を飲みたいとの要望で、いつもテーブルに置くようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の運営に関する意見や提案は日常の引継ぎ時、ミーティング、法人内メールなどで聞き、運営に反映させている。	職員は部長と年1回、管理者と年2回の個人面談をしている。毎日の申し送りノートや法人内メール、毎月のミーティング等により、職員から意見や要望が出し易い職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員（正規職員）が1年間の目標を立て、半年に一度の面談で進捗状況を確認している。安全衛生委員会に参加し働きやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人内や外部の研修に参加するとともに研修報告を他の職員に行い日常の業務に役立つように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名張市生活圏域会議や多職種連携研修に参加し同業者をはじめ様々な福祉関係者との交流を図ることで介護の質の向上を目指している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のご本人との面談において、不安なことや要望をお聞きし、その不安解消や要望の実現に向けて話し合い互いの関係を深めることで信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族に施設見学をしていただき、その後の面談において質問や要望をお聞きし、わかりやすく丁寧な説明を納得いただけるまですることで、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からの相談を受けニーズに合わせたサービスの見極めを行い、他の事業所との連携により適切なサービス提供に繋がられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日を通し共に時を過ごすことで家族同様の関係が成り立っており、また日々の生活においては個々の適正を活かした役割を担う事で生きがいを持ち暮らしていただけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時にはご家族に日々の様子を伝えご家族からもお話を伺う事で互いに情報を共有しご本人の支援に繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者が来訪しやすい関係作りや環境提供に努めている。また、ご家族の協力のもと馴染みの場所へ外出することで地域や人とのつながりを持った支援に努めている。	日々の会話から、馴染みの人や場所を聞いて関係が継続出来るように支援している。友人・知人が来訪したり、親戚の集まりに出かけたり、美容院に行くなどしている。週1回のデイサービス先で馴染みの人に合う場合もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格やそれぞれの相性、認知症状などを把握した上で職員が橋渡しとなり入居者同士の良好な関係作りに繋がる支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も求めがあれば、相談に応じ必要があれば情報提供を行うなどし一度築いた関係を大切にしたい支援に繋げている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で入居者一人ひとりの要望、意向を引き出すために観察、傾聴を心がけている。毎日の申し送りや連絡ノートの活用、ミーティングなどで職員間で共有し支援に努めている。	日頃の会話や表情から利用者の思いや意向の把握に努めている。会話困難でも、一人ひとりの声掛けや一寸した仕草からもその思いを理解し、申し送りノートに記し、職員全体で共有し支援するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご本人やご家族との面談や居宅介護支援事業所との情報交換で、これまでの生活歴、趣味などを聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の会話や様子の観察、バイタルチェックで得た情報を申し送り、記録などで把握し職員全員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三か月に一度のモニタリングでは担当者を決め、より深くご本人の状態を把握するとともに、ご本人、ご家族、職員の意見を聞き、課題やケアについて話し合い介護計画を作成している。	介護計画は家族面会時・電話対応などにより、利用者の状況報告や家族意見を聞くと共に、担当職員と意見交換しながら、3か月毎にモニタリングし、介護計画を文書化している。途中で状態に変化があれば随時、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化、バイタルチェック、食事、排泄に関する事項を個別記録に入力し職員全員で共有している。また、支援内容をミーティングなどで話し合い実践や計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員それぞれの経験や特徴を生かした支援を大切に、ご本人やご家族のニーズに柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りに出かけたり、地域のボランティアに施設訪問していただくなどして楽しみのある暮らしを提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回のかかりつけ医への受診には同行し健康管理を行っている。また、入居者それぞれの状態に応じた専門医の受診はご家族の協力も得ながら適切な医療を受けられるように努めている。	受診先は契約時に本人・家族と話し合い決めているが、多くは入居前の医院に通院している。協力医に通院する時は職員対応で、それ以外は家族の協力で受診しているが、緊急時も含め、常に適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時には法人所属の看護師と連携が取れるように普段から情報交換に努めている。また、法人看護師によるバイタルチェック研修など学びの場も設けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には入居者情報を病院に持参したり、病院の医師、看護師と面談するなどして連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には医療に関して事業所でできる事を説明しご本人、ご家族に納得していただいている。また、重度化した場合にはご家族と協力し、地域の施設への見学や申し込みについての情報提供を行っている。	家族には入居前より事業所として出来る事出来ない事を説明し、終末期の看取り対応は基本的にしないと伝えている。医療行為が生じた時点で再度、家族と話し合い、利用者にとって一番良い方法を合意し支援している。法人に看護科があり、必要なら応援を依頼する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は年1回消防署員による救急救命講習を受けている。事故防止委員会の委員を中心に事業所内で起こり得る事故について繰り返し話し合う機会を設け実践に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に訓練実施届を提出し月1回の避難訓練を実施している。職員全員が非常時に対応できるように努めている。	月1回の自主的避難訓練をし、夜間想定も含め実施し年1回は消防署参加の総合防災訓練をしており、その都度、反省点などを話し合っている。夜間想定や救命救急訓練はまだしておらず、防災ヘルメットもまだ用意していない。	いつ起こり得るかわからない災害時に備え、利用者が昼夜を問わず安全に避難できる方法を消防署とよく話し合い、訓練されることがや非常用備品などの再度の見直しが望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重する心を忘れずにその人に合った親しみの中にも礼儀を持った声掛けを心掛けている。入浴時や排泄時の声掛けや居室の扉の開け閉めなどプライバシーを損ねないように注意している。	人生の先輩としての対応に心がけている。特に言葉使いには、その人にとって良い声掛けになるよう注意を払うことを、いつも職員間で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを傾聴する中で表情や行動から思いを理解できるように努めている。また、希望を表しにくい場合には選択肢を示すなど工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いを大切にし食事、起床、就寝や入浴などご本人のペースで過ごしていただけるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで着ていた衣類や化粧品等をご家族に持参していただいたり、それぞれの好みに合わせた選択ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の後片付けは個々の状態に応じてできることをしていただいている。季節が感じられる献立となっており、誕生日や花見、クリスマスなどの行事食やおやつなどを目でも楽しんでいただけるよう工夫している。	季節の品を取り入れた食材が業者から届き、専任の調理師がおやつも含め作っている。目で楽しみ、味で楽しみ、時には中庭で食べたり、行事でメニューを変えたりしている。利用者は皆、食べることが一番の喜びで毎回、完食してもらう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量は記録している。摂取量が少ない場合には声掛けをしたり、個々の状態に応じた食べやすい物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシや口腔スポンジなどを使用した歯磨きの支援や義歯の手入れを一緒にするなど、それぞれの状態に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を表に記入し排泄のリズムを把握している。時間的誘導や仕草などから介助のタイミングを計りトイレでの排泄に努めている。それぞれの状態に応じポータブルトイレやパッドの使用で自立に向けた支援を行っている。	約半数の人が自立しており、他は排泄記録票を確認しながら声掛けや誘導をしている。利用者全員がトイレで排泄することを目標とし、リハビリパンツ使用が半分、夜間のみポータブルトイレ使用が一人いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足にならないように摂取量を記録し、レクリエーションや散歩など運動の機会を確保している。状態に応じて主治医より処方された薬を服用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一対一で対応できる個浴を行っている。入浴準備と一緒にしたり、ゆったりと話をしながらお湯につかったり、季節に応じてゆず湯にするなど楽しんでいただける工夫をしている。	簡易リフトが設置された浴室は広く、浴槽の湯を一人づつ入れ替えて、週2回午後にのんびり・ゆったり入浴を基本としている。希望があれば体調など見て、その都度対応している。柚子風呂で俳句を楽しむ利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングのソファや自室のベッドでいつでも自由にくつろいだり、休んだりできる。安心して休めるよう、在宅時に使っていたクッションやまくらなどを持参していただいたり、居室の温度や湿度、採光に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人ファイルに綴じ、職員がいつでも確認できるようになっている。服薬確認表を作成し確実な服用に努めている。薬の変更などがある場合には連絡ノートに記載し職員全員の周知を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話や生活歴の把握などから個々の趣味や嗜好品、楽しみなどを見出し、毎日が張りのある生活となるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事への参加や買い物、施設周辺の散歩、月1回の受診など外出支援を行っている。また、それぞれの希望に応じてご家族の協力で外出の機会を得ている。	天気の良い日は事業所の広い庭(駐車場)を散歩している。周辺道路の散歩には職員の勤務次第で同行している。桜や紅葉見物には数人交代でドライブを楽しんだり、近隣の保育園と交流したり、家族や知人の協力も得ながら出来る限りの外出支援を工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の希望に応じて対応している。ご自分で金銭管理をされている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方は自由に電話をされている。年賀状や手紙など希望があれば職員と一緒に書くなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔に保ち移動に支障の無いように配慮している。空調管理を行い、窓からの採光は強くなりすぎないようにスクリーンで調節している。壁面制作は入居者と一緒に季節の話などをしながら行っている。	玄関はじめ室内すべてが広い。ホール兼食堂の天井は高く、南北の大きな窓からは自然の風や光を取り込む工夫がしてある。窓越しに空を見て雲の動きで天気予報をする利用者もいる。また、空調管理で常に快適に過ごせるように工夫されている。昼間は皆がホールに集まり、思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングではソファやテーブル、椅子を配置し、気の合った者同士が思い思いの場所で自由に過ごせるように配慮している。また、自室で自由に過ごすこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族とも相談し、自宅で使っていた家具や写真、置物で自室を飾るなどして、ご本人にとって居心地の良い空間となるように努めている。	エアコン、ベットが事業所として設置されている他は、家族の協力の下、使い慣れた好みの家具などが持ち込まれている。壁には笑顔の家族写真や飾り物を貼り、自宅同様に安心して過ごしてもらう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を設置し、それぞれの状態に応じて目印となる花や写真を掲げている。トイレなどの共用の場にも表示をし自立した生活の手助けとなるように配慮している。		